

(1)

私は、この11日間はとても充実した生活を送ることができました。初めてのワッチに関しては、辛い事だらけでした。想像以上に酔いがひどく、同じ班員に沢山助けられました。船員の人も一年の時に比べ、お話しする機会がとてもあり楽しかったです。船が動いている時は、ひたすら寝ていましたが、停泊している夜は、皆で楽しく恋バナをしたりトランプをしたりと、学校では携帯をいじってあまり会話をしていない人も、コミュニケーションを取ることが出来ました。上陸では、美味しいご飯食を食べ、いい思い出となりました。きっと人生でもう船内生活は経験できないと思うので、残1日も頑張り、この短い期間で成長出来たと思えるよう過ごしたいです。料理も最高に美味しかったです。揺れている中のトイレとお風呂はもう嫌です。小笠原は、初めて上陸しました。海外にいるような、町がとてもきれいで住みたいと思いました。もっと長い間いて、イルカも沢山見て、観光してみたいと強く考えました。一年の時もとても思い出に残っていますが、今回の乗船は、辛い事も楽しい事も沢山経験でき自分の成長につながったと感じました。

(2)

私はこの11日間の乗船実習を通して辛いことがあっても仲間と協力し、最後までやりとげることの大切さを学びました。私は東京～小笠原に向かう時に船酔いであまり動くことができなかったため、動くことのできる人に食当やワッチの時の気象通報などを任せきりでした。しかし、その後の反省会で、帰りは仲間と協力してやろうということになりました。帰りはその反省を生かして、辛くてもなるべく動くようにしました。そのため行きでは学べなかったことを多く学ぶことができました。また仲間と協力することにより食当を早く準備できたり、ワッチ中や次の行動を間違えることが減ったりと、協力は大切だと感じました。乗船9日目になると気のゆるみが出て、5分前行動ができなくなりました。その時に仲間と今までの行動を振り返り、これから改善しようという話になりました。その後は皆で時間を確認したり、声かけをしたりしました。それにより最後まで気を抜くことなく最後までやりとげることができました。

私はこの乗船実習を通して自分が今までできなかったことも、仲間と協力することによりできるようになり、最後までやりとげるということを学びました。この経験を将来に活かすために、まず普段の生活で活かしたいと思います。

(3)

私は、今回の11日間の小笠原航海実習を通して、船内生活の楽しさ、辛さを全身で感じました。

船の上からしか見ることの出来ない景色や、揺れる船の中で、酔っても動かなければならないことの辛さを感じました。今回のような実習は、一生に一度しかできないので、一つ一つの行動を大切にし、思い出を心に一つ一つ刻むことができました。一日三食のとても美味しい食事や、船員の皆さんからのあたたかい支援や指導があったので、私達は無事に今回の航海実習を終えることができました。御指導ありがとうございました。

私は、前半組の中で一番酔い、一番多く吐きました。船酔いで苦しみながら、船内を動き回り、何日もかけて目的地まで突き進むことの辛さ、船の乗組員同士の協力は、自分の想像をはるかに上回るものでした。これらは、船舶において他にはないものだと思います。この経験はかけがえのないものになりました。また、今回の目的地、小笠原は滅多に行くことのできない、私の憧れの島に、今回のような機会で行くことができ、とても嬉しい思い出となりました。

(4)

私は、この11日間の乗船実習で多くのことを経験することができました。1年次に行くことのなかったワッチでは、ログブックや気象通報という全くわからないことも船員さんは丁寧に教えてくれ、とても勉強になりました。入港、出港作業では全ての配置に付くことができ、作業を目の前にして改めて大変さ

を実感しました。ブリッジでの、キャプテン、サードオフィサー、兒玉さんの作業は本当にかっこよくて、船に関わる仕事もいいなと思いました。上陸では、海国生であり、大島丸に乗っているという自覚持ちながら本当に楽しい思い出を作ることができました。また、船酔いする人も多く、食当やワッチでは困ることもありましたが、班員はもちろん、他の班の人たちも協力し合いながら過ごすことができたと思います。そのおかげでこの17人の絆も深めることができました。一人だけ最後まで一緒にいることができなく、もっと自分ができることがあったのでは、と悔しい部分もあります。でも、この17人で乗船実習ができて本当に良かったです。船長をはじめ、船員さんの温かさを感じこの乗船実習が終わってしまうのが寂しい気持ちがあります。

このような貴重な経験をできたことに感謝をし、将来に活かせるように頑張りたいと思います。17日間ありがとうございました。

## (5)

5月の中旬、私達第3学年国際系前半は乗船実習を行った。期間は5月10日から20日までの11日間だ。目的地は小笠原、一度東京湾に寄ってから丸二日間かけて向かった。この実習は自分にとって多くのことを得る機会となった。まず労働の大変さが分かった。食料や燃料の積み込み、基本毎日あった航海当直の中でのログブックの記入や気象通報、操舵などを通して少しは船員の、更に言えば社会人の大変さが身に染みた。理解したことで労働意欲の向上につなげたいと思う自分がいるけれど難しいだろう。

次に船酔いについて。自分は乗り物全般に弱く、朝登校する為のバスですら酔い、ジェットフォイルや普通の車、更にはカッターですら酔ったことがあるので、乗船実習はもちろん酔った。けれど気合で吐かずに前半を乗り越えると、ある変化が起きた。気持ち悪い感覚がどんどん少なくなってきたのだ。後半を過ぎた頃にはだいぶ余裕が戻ってきた。結局一回も吐かずに終わることができ、船酔いは気合で治せて耐性ができるものだと分かった。

最後にコミュニケーション能力だ。これは自分に最も不足していることだと自他ともに認めるくらい無かった。この実習が始まる前には、「暇な時間があったら寝ればいいかな。」「できる限り人に話しかけられたら答えよう。」程度の考えだった。しかし、乗船が始まったらなんとそこにはクラスメイトと楽しげに話す自分の姿が！

この経験を通して、「やればできる子やん！」という驚きとともに自分の可能性を確認できた。このように今回の実習で多くのことを学ぶことができた。このかけがえのない貴重な経験を未来に活かしていきたい。

## (6)

今回の11日間の乗船実習は、自分の中では半分楽しい思い出でしたが、それと同じくらい辛い事もありました。今回の乗船実習で一番辛かった事は、船酔いでした。船という乗り物に乗っている以上は、仕方ない事では有りますが、それでも尋常ではないくらい船に酔いました。まず出港してすぐに船で酔います。普通の考え方では人前で吐くというのは少し抵抗が有ると思いますが、そんなものもなくなるほど吐きます。吐くとお腹はすきますが、ご飯を食べる時も船は揺れているので酔っていて、ご飯も食べる事も出来ないほどになります。ご飯を食べる事ができず、お腹の中に何も食べ物が入っていても、酔いはするので吐きます。食べ物が入っていない胃の状態ですと吐くと胃液が出てきます。胃液を吐いたときは、本当に辛いです。前半の間は、ずっとその繰り返しでした。しかし辛かった反面、楽しかった事や、様々な事を学ぶことが出来ました。楽しかった事の中で一番印象に残っている事は、父島近海の海で泳いだことです。自分は海で泳いだり潜ったりすることが好きで色々な場所で泳いできましたが、今までの海と比べ物にならないほど綺麗でした。肝心のイルカに出会えたものの、あまり良く見えなかったので少し残念でした。そして楽しかったこと、辛かったこと、様々な事がありましたが、何より多くのことを学ぶことが出来ました。その中でも仲間との協力について考えさせられました。朝のベッドメイクを始めとし、ワッチ、食当、その他様々なことで、仲間との協力の大切さを知ることができました。今回の乗船実習で学んだことをこれからの生活でも活かしていきたいです。

最後になりましたが、この11日間自分たちに様々なことを体験し、教えて下さった船長を始め船員の

皆様、先生方、差し入れ等を持ってきてくださった先輩方、共に 11 日間の乗船を行った十 16 名のみんな、本当にありがとうございました。

(7)

私は、11 日間の乗船実習を終えて、一番に思ったことは、仲間と協力する事の大切さです。今回の乗船中、私は仲間にとっても助けられました。酔っていて、思ったように行動できない時に、動ける人が積極的に自分の分まで動いてくれました。辛い時に声をかけてくれました。前半は、全然動けませんでした。後半は、酔わずに動けるようになったのは、慣れたということよりも、声をかけてくれたり、自分の分まで動いてくれたりした、仲間のおかげだと思っています。このような行動を仲間がしてくれていなかったら、私は最後まで酔って動けずにいたと思います。とても感謝しています。

その後、感謝を返すために、まだ動けない人に、私がされたことと同じような行動をし、仲間と助け合いました。動けない人の分まで何かをした時に、ありがとうと言われました。自分から手伝いをして言われた時は、とても嬉しかったです。これからも生きていく中で、協力し、助け合っていくことは、大切な事で必要なことだと思いました。よく一人で生きていくのは無理だと聞きますが、改めて一人で生きていく事は無理だと実感しました。船の中で協力し、助け合い、辛い事もしたので、上陸した時はとても楽しかったです。私は 11 日間というとても短い時間で、沢山の自然に触れ、仲間との協力や助け合いの大切さを知ることができました。

とても充実した乗船実習になりました。今回学んだ事を、これからの人生にしっかりと活かし、信頼され頼られる人になっていきます。

(8)

私は、今回の乗船実習を通して協力の大切さをすごく学びました。今回の乗船実習では、小笠原に行きました。小笠原までは東京から約 2 日かかりました。小笠原に向かって行く中で、私たちが体験のしたことがないくらいに船が揺れて多くの人たちが船酔いをしてしまい、初日の揺れていない時とは、全然違う雰囲気になってしまいました。私は多くの人たちが船酔いで気持ちが悪くなっている中で、船酔いをしませんでした。私は酔っていないので掃除や食事の準備などを積極的にやりました。小笠原に着いてからは、酔っていた人も元気になりイルカと一緒に泳ぐなど楽しみました。小笠原で停泊している日の夜に、「この前やってくれたからやるよ。」と友達が食事の準備などをやってくれました。私は海で泳いで疲れていたのととても助かりました。ここでやっぱり協力の大切さを感じました。誰かがつらい時は誰かが助けるといった人と人とが助け合って協力する重要性を感じました。私は今回の乗船実習で学んだ、協力ということ船内だけでなく、陸でも助け合うこと忘れずにこれからの生活をしていきたい。どんなことがあっても人のために行動することを忘れずにやる。

(9)

私は今回の乗船実習を通して、物事をやり抜くことの大切さを学びました。また、海国初となる海洋ゴミ調査では、調査することの大切さを学びました。乗船している中で辛いのは予想通りに船酔いでした。船酔いをしながら作業をするのはとても苦しく、すぐにでもやめたいと思ったこともありました。しかし、船酔いをしているのは自分だけではありませんでした。自分は小笠原までいく際には積極的に動くことが出来ませんでした。小笠原での反省会で船酔いをしていない人に頼りすぎてしまっていることを反省し、後半は酔っていても酔っているなりに動こうと思いました。ワッチや食当など班や全員で協力して動き、より効率よく、より正確に動くことが出来ました。特にワッチでは初めて学ぶことが多く、苦労したこともありました。船員さんと班のメンバーの協力のおかげで乗り越えることができました。海国として初の取り組みとなる海洋ゴミの調査では海が綺麗だったということもあり、プラスチック類はあまり多くはなかったけれど、流れ藻の多さには驚きました。海洋ゴミの調査を通して小笠原に近づくことでゴミが減少していることが分かりました。これは当たり前と思われる結果かもしれませんが、目に見える記録としてみると根拠を持つことができました。また、流れ藻はゴミではないと考えられますが、もしマイクロプラスチックなどが付着していれば、小魚が食べ、小魚を大きな魚などが食

べることで大きな被害につながることも考えられます。そうだとすれば今回の調査で見つかった流れ藻の数は脅威となるとも考えられます。調査結果からは色々な考えに発展できると思いました。このように今回の乗船実習では仲間と協力して乗り越え、意味のある調査を行うことが出来ました。この経験は一生忘れないものになると思いました。